「福山駅前再整備再検討委員会」（仮称）設立のご提案

福山市長　羽　田　皓　様

福山城を中心とした緑に囲まれた文化ゾーンは、市民の憩いの場であると共に、新幹線駅に隣接した利便性の高い全国に誇れる空間です。羽田市長は『新版福山城　発刊に寄せて』の中で以下のように述べられていますが、文化財保護に理解を示され、長年に渡り積極的に整備を進めて来られた市関係者の先見性とご努力に対し心より敬意を表します。

「築城以来、福山発展のシンボルとして大きな存在であった福山城が、昭和２０年、戦災によって焼け落ちてしまうという不幸な歴史がありました。昭和４１年に市制施行五十周年記念事業で、復興福山のシンボルとして福山城天守閣・月見櫓・湯殿が再建され、以後、鏡櫓の再建、二之丸整備、城址公園の整備と環境整備も進んでまいりました。そして、美しく、雄大な福山城の姿を通して、躍進する福山のイメージが定着しております。また、鉄道で本市を訪れる人達にとっては、手が届くような距離に見える福山城の景観は、感慨深いものがあるようです。（以下省略）」

またこの度、市制施行百周年に向けて進められている福山駅前再整備では、地下を有効に活用して交通環境の改善を図る駅前広場の再整備、備後の中心に相応しい高度都市機能が集積された東桜町地区と伏見町地区の再開発が着実に進められています。

この地域の再整備は市民の長年の夢でしたが、取り分け駅前広場は福山城と福山駅の表玄関が折り重なった福山の顔であり、利便性を備えながらも、城下町ならではの資源を活かした特色ある整備が望まれます。

先ごろ行われた試掘調査では、福山城外堀の石垣が大変良好な姿で残存していることが判明しましが、これを受けて羽田市長は６月定例市議会において「より多くの市民が福山の歴史に触れることができるよう、可能な限り現状のまま見える手法も含め、その保存・活用方法について引き続き協議・検討して参りたいと考えております。」と述べられ、保存・活用については市民より大きな期待が寄せられています。

その後の調査でもこの石垣に連続して二重櫓跡が確認され、引き続き舟入状遺構・御水門跡の位置確認中とのことですが、福山城の表景観を特徴付ける遺構の出現に市民の関心は日増しに高まっています。

そのような中、地下送迎場の建設中止を前提でのプランが相次いで発表されるなど、遺構の取扱いをめぐり様々な意見が出て来ましたが、本プランでは、地下送迎場の帰路ルートを舟入状遺構の北側（JR 所有地地下）に設け、タクシーの乗降口を地下と南のバス乗り場の一部に分散移動することにより、地下送迎場を始めとした交通機能整備と御水門を中心とした文化遺産の保存・活用の両立を可能としました。

又、外堀に水を張り本来の姿に戻せば、水辺公園としての機能だけでなく、地球温暖化対策としても大きな効果が望め、人間環境都市福山のシンボルに相応しい空間となります。
又続いて計画されている伏見町地区再開発での遺構の保存・活用の見本となり、連続した景観表現が可能となります。
このことにより、城内に鉄道の駅舎を設けたという数奇な歴史のイタズラを活かした、他都市では決して真似の出来ない再開発となり、「チャレンジふくやま　新たなる創造と飛躍」をキャッチフレーズにされた市長の方針にも合致するものと確信します。

さてそこで私たちは本プランの実現に向けて、官民一体となった『福山駅前再整備再検討委員会』（仮称）の設立を提案いたします。
委員会では協働のまちづくりの精神に則り、市・商工会議所・周辺住民・再開発事業者・有識者等より広く参加を募り、本プラン実現に向けて関係者との大筋での意見調整を行うことを目的とします。
何卒宜しくご検討をお願いいたします。

平成１９年８月１７日

福山市三之丸町内会会長　土 屋 裕 士

福山駅前商店会会長　　三 宅 國 裕